追悼の辞

日本大学医学部において、過去一年間に、医学教育および医学研究のため、系統解剖に９７名、病理解剖に４２名、総計１３９名の方々が自ら進んで献体をされました。
この方々の追悼法要を執り行うにあたり、日本大学医学部教職員および学生を代表して、その尊いご遺志に対する深い敬意とともに、謹んで追悼の辞を捧げます。

授業や教科書で学んだ知識をもとに行う系統解剖学実習は、本当の意味で初めて人体構造の仕組みを体得し、理解する大切な経験です。約４か月にわたる解剖実習は、個々の医学生にとって、生涯にわたり忘れることのできない貴重な体験となります。系統解剖実習は、人体構造を知識として習得することが大切な目的です。しかし、それ以上に献体くださいましたご本人ならびにご家族に方の崇高なご意志を感じ取り、ご遺体を通して会話を続ける４ヶ月は、人間の偉大さに畏敬の念を持つ貴重な時間となります。そして、生命とは何かを考え、自らの体を献体されたお気持ちから人間の本質を学ぶ機会となります。これから臨床の場で患者さんと接することになる学生にとって、最も大切な体験学習であるといっても過言ではないと考えます。ご遺体は、医学生にとって、「真の教師」であり、ご遺体と学生との心の交流は、医師としての第一歩として生涯にわたって続いていきます。学生は、系統解剖実習を行うことで、医療に携わる人間としての心構え、倫理観を学び、ヒポクラテスの時代から脈々と続く医学の系譜を自覚したことと思います。

病理解剖は、疾病の原因および病態を知ることです。医学と医療の質の向上のために、貴重な情報を与えて下さいます。このような情報は、卒前・卒後の医学教育、ならびに研究において極めて重要であり、医学の進歩に欠かせない役割を担っています。

今、この時もコロナ感染症は終息していません。全世界の人々に何らかの制限があります。そして、今も多くの方が罹患し、犠牲となっている方も少なくありません。この未曽有の感染症に対し、世界中の医療に携わる人たちが臨床の現場で、あるいは研究の場で寸暇を惜しんで戦っているところです。医療を提供している我々医療人を育てて下さったのは、医学教育、研究の推進のため、自らのお身体を提供してくださったまさに献体者の心にほかなりません。

系統解剖に、病理解剖にみずから進んで、そしてご遺族の深い悲しみの中においてもご理解のもとに、学生教育ならびに医学の発展の為に献体をされましたことに、心から敬意と感謝の念を感じております。皆様は、真に人類愛に生きる先覚者であり、私ども医療人を導いてくださっている先導者であ

ると申しても過言ではありません。

私ども、医学に携わる者は、ご献体くださいました方々の尊いご遺志、ご家族の皆様のお心に日々感謝の念を忘れることはありません。そして、他の方の人生に責任をもつ職業であることに責任を自覚し、更に研鑽および努力を重ねて、人類の健康と福祉に貢献することをお誓いし、追悼の辞と致します。

令和三年十月九日

日本大学医学部長
後藤田　卓　志